

メッセージアウトライン

ローマ 1 : 16～17 「義人は信仰によって生きる」

[16] 「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です」

パウロは出だしを否定文で語っている。これは肯定文による表現よりもきわめて強い調子となっており、彼の本心を表わしている。かつて彼はキリスト教の熱烈な迫害者であったが、あのダマスコ途上で復活のキリストに出会い回心し、福音の内容を本当に理解した時、はっきりと「私は福音を恥とは思いません」ということができた。

彼は神の力である福音に触れて今まで持っていた偏見や肉の誇り、徹底的な律法遵守の生き方をこっぱみじんに吹き飛ばされてしまった。今まで死ぬほどの努力によっても得られなかったことが、福音という神ご自身の与えてくださった力によって得られることがわかったのである。→Ⅱコリント5:17

福音は神の力であり、人間の力でなしえなかったことを神はしてくださった。そしてこの神の力はパウロだけではなくユダヤ人でもギリシヤ人でも世界中のどのような人でも信じる者に救いを得させることができるのである。

[17] 「なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。『義人は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです」

ここで言う「神の義」とは「神の義(ただ)しさ」であるとともに「神との正しい関係と交わりの回復」をも意味する。神は義なる正しい方であるゆえに罪ある人間をそのまま赦すことはできない。罪は必ず罰せられなければならない。しかし愛とあわれみに富まれる神はそのような神に反逆して生きている私たちをあわれんで救おうとされた。そのために神はひとり子イエス・キリストを救い主としてこの世に送ってくださったのである。

→ヨハネ3:16

私たちにはできないことを神の方からしてくださった。それゆえ自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを自分の救い主と信じる者は救われる。これが福音であり、救いを得させる神の力なのである。

神の救いはただ信仰のみによる。それをパウロはここで、「その義は信仰に始まり信仰に進ませる」と強調している。

「義人は信仰によって生きる」とは旧約のハバクク書2:4からの引用であり、パウロはこの箇所を引用することによって旧約聖書がすでに信仰による義を語っていることを示している。すなわち人は律法ではなく信仰によって神の前に義と認められるということを言っているのである。

人は行いにはよらず、私たちのために救いのみわざをなしてくださったイエス・キリストを信じる信仰によって義とされ救われる。それゆえ福音に触れ救われた者はパウロとともに「私は福音を恥とは思いません…」と告白しつつ信仰の歩みを進めることができるのである。